

防災塾

No.14

防災を「忘災」にしない為に。

前回に続き、災害に関する忘備録の引出し-3です。全部紹介出来ませんが次回で最終とします。

■避難生活 注意点は!! (朝日新聞からの抜粋)

- こまめに運動／水分補給／保温を心がけることが重要です。避難所などで長時間同じ姿勢をしていると起きる可能性があるのは、肺塞栓症（エコノミークラス症候群）。ふくらはぎの静脈などに血栓（血の塊）ができ、それが流れて肺の血管を詰まらせる病気です。

車中で寝泊まりする場合「長くて3日にとどめ、寝るときは座席を倒して、足を体より低い位置に置かないようにして」、2～3時間1回は10～20メートルでも歩くことを勧める。



トイレに行くのを控えるために水分をとらなくなる人がいるが、血栓ができやすくなるので、のどが渇く前に水分をとる必要があるという。

寒暖の差がある時期は、低体温症も心配されます。体温が通常よりも下がることで体のバランスが崩れ、脳や心臓などの機能が低下することで起きます。重度になると意識を失ったり、血圧が低下して不整脈が出たりして、命にかかわることもあります。

救急医学の専門家は「赤ちゃんや高齢者、糖尿病などの持病がある人には、周りの人が保温に気を配ってほしい」と語る。厚生労働省の指針では、「ぬれた衣服は脱いで毛布にくるまるなどして体温を保つこと。体温を上げるために栄養や水分の補給が必要。」と示しています。

■マンションの復旧について (朝日新聞からの抜粋)

熊本地震で被災した分譲マンションの修復例です。

- 73戸が入る築25年の14階建ての分譲マンション。調査の結果、柱や梁など主要構造部分は無事で、建て替えなくてもよいとのこと。しかし、区分所有者の合意がないと解体や修復へも進めないというマンション特有の困難に直面しました。

建て替えには所有者の8割以上、修復でもこの規模だと4分の3以上の同意が必要です。

手続きの主役になる管理組合はふつうの住民の集まり。経験も知識もない中、費用の見積もりや資金調達、所有者の分担などを総会で提案し、同意を得なければならぬ。



修理の見積もりは1億数千万円。資金の元手や負担金の議案を臨時総会に提案。

ほぼ100%の賛成で承認され、替工した。地震保険と公的支援で6割をま

かない、修繕積立金と所有者負担が4割で、復旧に向けて着工することが出来た。この様に出来たのは、短期間で住民との連絡が取れたからです。

※被災して住民が離散した場合、連絡が取れないと何時までも建物を復旧する話合いが出来ません。従って、被災した団地から他へ転居する場合、管理組合へ連絡先を告げて移ることが重要な事項の1つです。

■ペットと避難。避難所で受け入れてもらうには!! (朝日新聞からの抜粋)

避難所の運営は避難者で行うため、ペットを避難所の中に入れるかどうかは、避難所の運営方針によって異なります。しつけ・周囲への配慮、予防接種も大切。避難訓練に参加し地域になじむことも必要です。

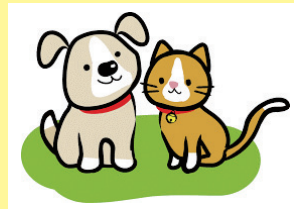
- 多くの人が集まる避難所では、ペットによるトラブルも起きやすく、注意が必要です。

動物学の専門家は、避難所ではアレルギーのある人や動物嫌いの人への配慮を大前提として、「ペットに対して中立的な人たちに受け入れてもらえるように、飼い主の普段のしつけやマナーが重要になる」と話す。

しつけでは、飼い主以外の人や、ほかの大猫を怖がったりほえたりしないように社会性をつける。トイレシートなど決まった場所で排泄できるよう訓練し、清潔にしておけば受け入れられやすいという。

慣れない環境で避難生活が続けると免疫力が落ちて、普段はあまりかからない病気のリスクが高まる。狂犬病をはじめ、予防接種を受けておけば病気を防ぎやすくなります。

熊本地震で避難した377人を対象にした内閣府の調査では、避難所の中にペットを入れることについて「問題ない」と答えたのは14.1%で、「入れてほしくない」は35.5%。最も多かったのは、「問題には感じるが仕方のないことだと思う」(45.9%)でした。



新潟県上越市で開かれたペットの防災講演会では、「ペットを屋外に置くのは嫌か」という質問に、約50人の飼い主のほとんどが手を挙げた。一方、ペットと避難訓練をしたことがある人はいなかった。講師は、「屋内で一緒に過ごすことを期待する飼い主の本音を、避難所を運営する行政や自治会の人たちも知ってほしい。一方で、避難訓練は地域の人や避難所運営者にペットを知ってもらえる意味もあるので、参加したほうが良い」と話す。

※ペットを飼っている人は、どう対処するかを考えなければならない内容です。

地震に無関心では、自分や家族を守れません。ぜひ、今後開催する「防災塾」へ足を運んでください。

「防災塾」の開催日は階段下掲示板へ貼り出します。

「防災塾」塾長・防災士 竹内 一三 ☎046-254-7137

後援：相武台グリーンパーク災害対策合同委員会